

経営情報論		講義	教授 樽井 勇之
科目カテゴリー	国際ビジネスコースの専門 選択科目、経営・経済コー スの選択必修科目	科目ナンバリング	23201201

1. 授業のねらい・概要

現代は情報化社会、最近ではネットワーク社会と称され、さらに情報を知識に変換して活動する知識社会とも言われている。

コンピュータの普及は歴史的に見れば、データ処理から情報処理へ、さらに情報通信技術（ICT）の飛躍的な発展、インターネットを駆使したグローバルなネット企業、モバイルコンピュータや携帯電話などの多様化した活用形態は、企業、行政、社会、生活全般に変革をもたらしている。

本講義では、経営情報論の基礎を理解した上で、経営情報システムの形態や特徴、効果、および経営管理面での情報化の姿を学習する。

また、経営活動に対する情報通信技術（ICT）が、いかにしてビジネスプロセスの変革をもたらすかという経営情報論の理論的枠組み、それに伴う新しいビジネス形態である「ネット・ビジネス」について学習する。

2. 授業の進め方

講義中心に進めるが理解を深めるために定期的に小レポートを出題する。

3. 授業計画

1. ガイダンス	9. ソーシャルメディア
2. 経営情報システムの基盤	10. 情報セキュリティ
3. 経営情報システムの発展	11. 業務アプリケーション（基幹業務）
4. ハードウェア	12. 業務アプリケーション（統合型）
5. ソフトウェア	13. e ビジネス
6. データベース	14. ビッグデータ
7. 情報通信ネットワーク	15. ビジネスシミュレーション
8. モバイルコンピューティング	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

最新 IT を活用した経営情報システムについてインターネットや教科書で調べてみる（1 時間程度）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

小レポートを出題後にヒントを与え、授業時間終了前に模範解答を説明する。定期試験の際には解答状況などをコメントする。

6. 授業における学修の到達目標

社会における情報システムについて理解し、ビジネスの現場や日常生活で積極的に活用できる。

7. 成績評価の方法・基準

小レポートの内容（50%）、定期試験の結果（50%）によって評価する。

8. テキスト・参考文献

参考文献：小泉澄、野々山隆幸、『最新 IT を活用する経営情報論』、テン・ブックス、2014 年

9. 受講上の留意事項

経営活動を支える情報通信技術や、インターネットを活用したネット・ビジネスについては、身近に触れる機会が多い

ので、普段から関心をもって学んでほしい。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無
該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連
上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。